

# 「学校改善と学校の個別性についての調査

## — 一校長からみた学校組織風土の分析 — の報告

法政大学大学院 藏 田 幸 三

郵送法で各中学校に質問票を配布し、同封の返信封筒によって返送する方式を用いた。

### 1、はじめに

本稿は、我々が1997年8月に実施した「学校改善と学校の個別性についての調査—一校長からみた学校組織風土の分析—」の集計結果をまとめたものである。今日、教育改革を実現する上で、教職員を中心としたそれぞれの学校の改善への努力が重要であり、また、不可欠のものであるという認識はもはや常識といってよい。学校毎に特に雰囲気や風土が、学校のあり方や更には生徒の学業業績や立ち振る舞いにも大きな影響を持っていることは、これまでも経験的に知られてきた。我々は以上のような認識に立って、それぞれの学校が持つ雰囲気や組織風土に注目することとした。これまで、それぞれの学校が持つ雰囲気や特徴は「組織風土」\*2「組織文化」\*3「組織特性」\*4などと呼ばれてきた。

ここでは、我々は「学校組織風土」ということばを使用する。この「学校組織風土」とは、個別学校の教職員が共有している行動様式や学校に漂う雰囲気のことを指している。この「組織風土」という分析枠組を使って、我々は、学校がそれぞれに持つ雰囲気や風土はどのようなものとして理解することができるのか、また、それらがどのような要因により生み出されるのかということ調査することとした。なお、本調査は時間的制約と紙面の制約から、得られたデータの一部しか掲載することができない。より詳細な報告と分析については、後日別の機会に行う予定であることを予めお断りしておきたい。

### 2、調査手続き、回収率

#### (1)調査対象及び回収率

本調査はT県、I県の全公立中学校904校の校長を対象にした悉皆調査であり、有効回答率は435校、有効回答率は48.1%であった。

#### (2)調査期間

1997年8月1日～8月31日

#### (3)調査方法

### 3、質問内容の構成

質問については末尾に掲載しているもので、参照していただきたい。我々はフェイス・シートも含めて全部でQ1からQ13までの質問を設けた。その内容は以下の8つの質問群（まとまり）に集約されるものである。本調査においては、これらの間に関わりを抽出することを、我々の課題とした。このため、質問事項は多岐に及び、回答者の校長先生に多大なご負担をお掛けした。この場を借りてお詫びしておきたい。

また、原則として、回答には評定尺度法を用い、五段階もしくは、四段階のリッカート法（「まさにそうである」「だいたいそうである」「どちらともいえない」「あまりそうでない」「全くそうでない」）などを用いたこうして得られた結果を単純集計するとともに、因子分析\*5を行った。その上で、抽出された因子をもとに作られた合成変数間の相関係数\*6を求め、それらの間に関わりを抽出することとした。

なお、質問項目の作成にあたっては、先行研究に学ぶところが多い。特に、「学校組織風土」を問う項目は、林（1993）\*7を参考とし、「教師が持つ生徒指導観」の質問群については、佐古（1995）\*8を参考として質問を作成した。その他の質問項目は、先行研究の成果をふまえ、今回我々が独自に設定したものである。

- 1) 学校及び校長の属性 (Q1、Q2)
- 2) 学校組織風土 (Q3)
- 3) 校長のリーダーシップ特性 (Q4)
- 4) 教育目標・校長の共振行動 (Q5)
- 5) 父母・地域の特性 (Q6、Q7、Q8、Q9、Q11)
- 6) 地域と学校の間わり (Q12)
- 7) 地域と学校との間わりについての校長の期待・信念 (Q10)
- 8) 生徒の現状と教師が持つ生徒指導観 (Q13)

## 4、単純集計と質問群（まとめり）の因子分析

### 1) 学校組織風土

図1：「学校組織風土」についての質問の単純集計

質問事項	1：まさにそうである	2：だいたいそうである	3：どちらともいえない	4：あまりそうでない	5：全くそうでない
A教職員間の親睦を深めるための機会が多い	6.2	42.3	37.2	13.8	0.5
B教職員は生徒の成長の様子を話題にすることが多い	23.1	61.9	12.0	3.0	0.0
C教育活動に関して教職員間で互いに指導助言し合っている	7.2	53.6	27.5	11.7	0.0
D教職員間には同僚の努力過程よりも、功績や成果を評価する雰囲気がある	1.1	9.4	42.1	42.5	4.8
E日常の職務に関する連絡事項や情報は全教職員にいきわたっている	21.4	66.1	8.3	4.1	0.0
F職員会議では活発な討論が行われ、各自の意見を自由に交換できる	9.7	50.6	30.0	9.5	0.2
G教職員はそれぞれの教育方針や活動についてお互いに無関心である	0.2	4.8	29.7	47.5	17.7
H学校運営にあたっては慣行や伝統が重視されている	1.2	32.6	44.5	20.3	1.4
I学校運営において各自の仕事がどのように役立っているか理解している教師が多い	3.0	58.6	30.1	7.8	0.5
J生徒の現実を考慮しないで、理想を追求しやすい教職員が多い	0.7	5.1	23.0	57.6	13.6
K仕事に必要な知識技能を積極的に伸ばそうとする気風に富んでいる	5.1	39.3	38.2	15.2	1.6
L特定の部活動では熱心さゆえにいきすぎた指導に及ぶことがある	3.7	12.9	26.6	41.6	15.2
M少しくらいの失敗であれば、許しあえる雰囲気が教職員間にある	9.7	64.7	20.8	4.8	0.0
N指導力のある先生に追従しやすい傾向が教職員間に見られる	2.1	24.7	50.9	20.0	2.3
O教科指導の方法は、各教師が自分の考え方で思い思いに実施している	6.7	46.9	29.3	14.8	2.1
P学級経営のあり方や担任の悩みが学年会や全校研修の場で、みんなの問題として共有される	10.8	57.4	23.3	7.8	0.7
Q指導力のない教職員を全体としてサポートしていく雰囲気がある	6.5	56.9	25.8	10.8	0.0
R「生徒との間に一線を画すべきだ」という共通認識が教職員間にある	3.9	37.5	37.0	20.0	1.6
S普段は一人で事を進めながら、せっぱつまったときには「管理職頼み」になる傾向が教職員にある	3.4	22.3	35.4	34.5	4.4
T教職員間に体罰に無関心を装う雰囲気がある	0.7	4.4	13.9	50.3	30.7
U多忙のため、教職員にゆとりがない	17.7	35.7	30.9	13.6	2.1
V学級担任を選ぶ場合、教師の希望が尊重されている	8.1	61.3	24.1	5.1	1.4
W校外の研究会や研修への参加が奨励されている	16.6	59.9	17.7	5.1	0.7
X生徒の生活態度や服装などについて厳しく指導している先生が多い	4.2	33.1	38.9	21.1	2.8
Y核となる教師に振り回されている	1.8	6.2	28.3	43.5	20.0

図 2 : 「学校組織風土」の因子分析

質 問 内 容	<親和性> 第 1 因子	<他律性> 第 2 因子	<調和性> 第 3 因子	<民主性> 第 4 因子	<多忙性> 第 5 因子
教育活動に関して教職員間で互いに指導助言し合っている	<u>0.70248</u>	- 0.09131	0.24467	- 0.88060	- 0.02136
学級経営のあり方や担任の悩みが学年会や全校研修の場で、みんなの問題として共有される	<u>0.66969</u>	- 0.12712	0.20827	0.18214	0.05324
教職員は生徒の成長の様子を話題にすることが多い	<u>0.66550</u>	- 0.07268	0.15377	0.08301	0.11640
指導力のない教職員を全体としてサポートしていく雰囲気がある	<u>0.66369</u>	- 0.11968	0.02424	0.09206	0.19179
仕事に必要な知識技能を積極的に伸ばそうとする気風に富んでいる	<u>0.61550</u>	- 0.11053	0.36162	- 0.08275	0.08557
教職員間の親睦を深めるための機会が多い	<u>0.60315</u>	0.12284	- 0.16086	0.03612	- 0.32483
少しくらいの失敗であれば、許しあえる雰囲気が教職員間にある	<u>0.53108</u>	- 0.12315	- 0.13108	0.00645	0.08357
学校運営において各自の仕事がどのように役立っているか理解している教師が多い	<u>0.52864</u>	- 0.10486	20.27862	0.2414	- 0.03520
教職員はそれぞれの教育方針や活動についてお互いに無関心である	<u>- 0.51522</u>	0.44452	- 0.06052	0.05129	0.07951
職員会議では活発な討論が行われ、各自の意見を自由に交換できる	<u>0.5714</u>	- 0.18328	0.07348	0.26169	0.14757
核となる教師に振り回されている	- 0.19773	<u>0.63504</u>	- 0.16674	- 0.06784	0.03247
教職員間は同僚の努力過程よりも、功績や成果を評価する雰囲気がある	0.12536	<u>0.61813</u>	0.13921	- 0.07414	- 0.08921
教職員間に体罰に無関心を装う雰囲気がある	- 0.16600	<u>0.57394</u>	- 0.07674	0.09047	0.01742
指導力のある先生に追従しやすい傾向が教職員間に見られる	- 0.14784	<u>0.54055</u>	- 0.09364	0.099462	0.22164
学校運営にあたっては慣行や伝統が重視されている	- 0.23365	0.49663	0.16466	0.48959	- 0.07962
教科指導のねらいや重点については、教師はそれぞれの考え方にたって決めていけばよい	- 0.10364	0.09962	<u>- 0.73525</u>	0.10912	0.13406
教科指導のねらいや重点については、校内教師との調和を重視すべきだ	0.20271	- 0.04841	<u>0.65584</u>	0.15473	0.22828
学級担任を選ぶ場合、教師の希望が重視されている	0.01864	0.04831	- 0.18042	<u>0.65215</u>	0.25430
校外の研究会や研修への参加が奨励されている	0.35075	- 0.07880	0.11550	0.47926	- 0.22953
日常の職務に関する連絡事項や情報は全教職員にいきわたっている	0.37867	- 0.21734	0.09362	0.47354	- 0.09684
多忙のため、教職員にゆとりがない	0.10987	0.08544	0.03925	0.03320	<u>0.82171</u>

<因子解釈>

抽出された因子は、「親和性」「他律性」「調和性」「民主性」「多忙性」である\*9。

第一因子は、「教職員間で互いに指導助言し合ったり」「指導力のない教職員を全体としてサポートしていく雰囲気がある」など、学校全体で協動的・協同的な雰囲気があるということから、「親和性」の因子と命名した。第二因子は、「指導力のある先生に追従しやすい傾向」や「核になる教師に振り回される」など、教師が指導・行動にあたって、その判断基準を他者にゆだねてしまう雰囲気として、「他律性」の因子と考えた。第三因子は、教職員が教育指導を行っていくにあたって「校内教師との調和を重視する」など、他の教師とバランスをとりながら行動する傾向として、「調和性」の因子と名付けた。第四因子は、学校運営にあたって「教師の希望が尊重されている」たり、「連絡事項や情報は全教職員にいきわたっている」など、学校活動において教職員の関与・参加が認められている雰囲気として、「民主性」の因子と命名した。第五因子は、「多忙のため、教職員にゆとりがない」という、教育活動において学校事務などに追われて教師が忙しく余裕がない傾向がみられるということで「多忙性」因子とした。

2) 校長のリーダーシップ特性

単純集計 (図3)

因子分析 (図4)

<因子解釈>

抽出された因子は、「権威依存」「強力」「合意重視」「他者比較」「合理的」「校長優位」である。

第一因子は、「県(都)教委の指導方針」「市町村(区)教委の指導方針」「審議会答申」などを尊重するというように、制度化された行政その他の機構の中で上位権力に依頼して学校運営を行っていくとする傾向として、「権威依存」の因子と命名した。第二因子は、「学校運営にあたって校長が自己の方針や考えを明確に示したり、「学校全体として教育・指導にあたる全教職員の協力を求め」たりと、校長が指導力を全体として高めていくとする雰囲気として「強力」の因子とした。第三因子は、「全教職員による話し合いで得られた合意が尊重されること」や「教育目標や計画に関与し、共通の理解に努めること」など、学校を動かしていくときに教職員の話し合いや意見を大切にしていく傾向として、「合意重視」の因子とした。第四因子は、「市町

村(区)内の他の学校に負けないように」したり、「他の校長先生の経営のあり方に歩調を合わせ」たりと、学校経営にあたって他の学校を意識しながら、競争したり同調したりする雰囲気として、「他者比較」の因子と命名した。第五因子は、「創意工夫のある授業をしている先生には高い評価を与え」、「力量のある教師をリーダーに起用する」など、学校運営を行うにあたって教職員が納得できるような評価を与えることを重視する傾向として、「合理的」の因子と名付けた。第六因子は、「筋の通らない保護者や地域の意見を断固として拒否すること」や「最終的責任を引き受ける姿勢が校長にあることを教職員に対して示すこと」など、学校に係る事柄については断固とした姿勢で校長が対処する雰囲気として、「校長優位」の因子とした。

図3：「校長のリーダーシップ特性」についての質問の単純集計

質問項目	1：非常に～いる	2：かなり～いる	3：やや～いる	4：あまり～いない	5：全く～いない
A 学校の指導方針が保護者に理解され支持されるよう努めること	41.8	49.7	7.1	1.1	0.2
B 学校全体として教育・指導にあたる全教職員の協力を求めること	42.8	49.4	7.1	0.7	0.0
C 教育活動の遂行に教職員の創意や自主性を生かすこと	21.9	61.9	15.0	1.2	0.0
D 生徒に学習面や生活面の規律を守らせること	14.1	51.0	31.6	3.2	0.0
E 学校の運営にあたって各自の果たす役割や責任が明確であること	20.0	62.1	16.6	1.4	0.0
F 学校の運営にあたって、校長が自己の方針や考え方を明確に示すこと	46.2	41.6	11.3	0.7	0.2
G 教職員が保護者の教育要求を把握し教育活動に取り組むこと	11.3	51.3	32.9	4.6	0.0
H 校務分掌の担当は職能成長に応じ教職員間で公平に分担されること	6.0	44.4	37.9	10.1	1.6
I 全教職員による話し合いで得られた合意が尊重されること	12.9	51.3	28.7	6.2	0.9
J 校長の経営権が教職員によって侵害されないようにすること	11.8	34.6	31.2	18.2	4.2
K 創意工夫のある授業をしている先生には高い評価を与えること	21.7	58.9	17.1	2.1	0.2
L 性や年齢にかかわらず力量のある教師をリーダーに起用すること	24.5	61.4	12.2	18.0	0.0
M 最終的責任を引き受ける姿勢が校長にあることを教職員に対して示すこと	54.2	38.2	6.0	1.2	0.5
N 教職員でお互いに良いところを評価するような雰囲気をつくること	20.6	56.6	20.8	2.1	0.0
O 生徒の現状について、教職員同志でつねに情報交換するように努めること	41.6	50.8	7.4	0.2	0.0
P 学校運営における伝統・習慣を見直す機会をつくること	6.0	47.8	40.4	5.8	0.0
Q 市町村(区)内の他の校長先生の経営のあり方に歩調を合わせること	0.7	18.5	42.4	33.8	4.6
R 学業成績・部活動・生徒の立ち振る舞いにおいて、市町村(区)内の他の学校に負けられないようにすること	1.4	15.8	36.0	37.9	8.8
S 校外における生徒指導にも学校が関与すること	5.1	40.0	42.0	11.5	1.4
T 筋の通らない保護者や地域の意見を断固として拒否すること	10.9	38.9	35.4	12.0	2.8
U 「ほうれんそう(報告・連絡・相談)を徹底すること	38.8	46.2	13.2	1.8	0.0
V 中教審等の審議会答申を学校経営に反映させること	10.9	50.0	33.3	5.8	0.0
W 県(都)教委の指導方針を尊重すること	17.4	54.7	24.2	3.7	0.0
X 地方教育事務所の指導方針を尊重すること	18.5	48.5	27.9	4.6	0.5
Y 市町村(区)教委の指導方針を尊重すること	21.3	56.8	20.0	1.9	0.0
Z 校長会で決定された方針を尊重すること	23.1	56.4	17.3	3.2	0.0
a 全教職員が学校の教育目標や計画の達成に対する高い関心を持つこと	33.9	51.0	13.7	1.4	0.0
b 全教職員が学校の教育目標や計画に関与し、共通の理解に努めること	34.0	51.9	13.0	1.2	0.0

図4：「校長のリーダーシップ特性」の因子分析

質問内容	<権威依存> 第1因子	<強力> 第2因子	<合意重視> 第3因子	<他者比較> 第4因子	<合理的> 第5因子	<校長優位> 第6因子
県(都)教委の指導方針を尊重すること	0.88786	0.21718	0.16095	0.09440	0.04727	0.05008
市町村(区)教委の指導方針を尊重すること	0.87630	0.14381	0.22205	0.11131	0.016628	0.01628
地方教育事務所の指導方針を尊重すること	0.84704	0.24451	0.10771	0.13795	0.01838	0.10975
中教審等の審議会答申を学校経営に反映させること	0.76468	0.23105	-0.00468	0.20306	0.13187	-0.04075
校長会で決定された方針を尊重すること	0.72167	0.06358	0.23249	0.16362	0.10426	0.10814
全教職員が学校の教育目標や計画の達成に対する高い関心を持つこと	0.49883	0.37031	0.45357	-0.7336	0.27543	-0.06302
教育活動の遂行に教職員の創意や自主性を生かすこと	0.26693	0.70724	0.1441	0.09870	-0.01962	0.04695
学校の運営に当たって各自の果たす役割や責任が明確であること	0.12768	0.67244	0.17916	0.29348	-0.03940	-0.01683
学校の運営にあたって校長が自己の方針や考え方を明確に示すこと	0.222067	0.63787	0.13567	-0.01447	0.25627	0.16505
学校の指導方針が保護者に理解され支持されるよう努めること	0.17118	0.60963	0.17847	-0.19898	0.16658	0.12409
学校全体として教育・指導にあたる全教職員の協力を求めること	0.19764	0.53090	0.30033	-0.03649	0.18932	0.03123
教職員が保護者の教育要求を把握し教育活動に取り組むこと	0.103555	0.46252	0.26665	0.22093	0.17871	-0.21731
学校運営における伝統・慣習を見直す機会をつくること	0.13850	0.35816	0.15845	0.27788	0.17082	-0.26723
生徒の現状について、教職員同士でつねに情報交換をするように努めること	0.21784	0.10968	0.73628	-0.01876	0.13674	0.09934
教職員間でお互いに良いところを評価するような雰囲気をつくること	0.13217	0.33265	0.63995	0.06040	0.02464	0.15800
「ほうれんそう(報告・連絡・相談)を徹底すること	0.38649	0.25967	0.52484	-0.01742	0.22474	0.16244
全教職員による話し合いで得られた合意が尊重されること	0.11303	0.22969	0.51496	0.40059	-0.26284	-0.03448
全教職員が学校の教育目標や計画に関与し、共通の理解に努めること	0.41791	0.36299	0.50625	-0.04644	0.22530	-0.17090
学業成績・部活動・生徒の立ち振る舞いにおいて、市町村(区)内の他の学校に負けないようにすること	0.13145	-0.03155	-0.08977	0.70508	0.11486	0.21726
市町村(区)内の他の校長先生の経営のあり方に歩調を合わせる	0.27112	-0.07892	-0.02784	0.69954	0.07146	0.05063
校務分掌の担当は職能成長に応じ教職員間で公平に分担されること	0.00256	0.21788	0.35618	0.52571	0.11459	-0.16789
生徒に学習面や生活面の規律を守らせること	0.10062	0.42401	0.00633	0.46132	0.13399	0.29165
校長の経営権が教職員によって侵害されないようにすること	0.05535	0.09092	-0.13680	0.08998	0.75916	0.05621
創意工夫のある授業をしている先生には高い評価を与えること	0.13380	0.14765	0.23673	0.11860	0.61522	0.17078
性や年齢にかかわらず力量のある教師をリーダーに起用すること	0.08158	0.18974	0.28273	0.08880	0.56400	0.00369
筋の通らない保護者や地域の意見を断固として拒否すること	0.04698	0.05449	0.00060	0.08253	0.18383	0.70266
校外における生徒指導にも学校が関与すること	0.23057	-0.00032	0.20504	0.37323	-0.10808	0.60703
最終的責任を引き受ける姿勢が校長にあることを教職員に対して示すこと	0.04925	0.37246	0.25925	-0.10830	0.22625	0.42152

## 3) 父母・地域の特性

図5: 「父母・地域の特性」の因子分析

質問内容	<伝統重視> 第1因子	<低階層> 第2因子	<文化性> 第3因子	<過疎> 第4因子
昔ながらの習慣やしきたりを重んじる	0.80658	-0.16629	-0.10757	0.11073
いわゆる「地域有力者(地域のボス)」がいる	0.77942	0.08449	0.09953	-0.03930
神社のお祭りが年中行事のひとつとなっている	0.72618	0.09037	0.02636	-0.00655
母子・父子家庭が多い	0.05876	0.88363	-0.12012	0.066022
生活保護受給家庭が多い	0.01961	0.87639	-0.12578	0.04845
教員より学歴の高い保護者が多い	-0.11957	-0.12618	0.72699	-0.15084
図書館・美術館・大学などの文化施設がある	0.00297	-0.01786	0.68590	0.19671
いわゆる「名門小学校」がある	0.28316	-0.13817	0.66597	0.17580
転入者・転出者が多い	-0.23101	0.44157	0.45250	-0.43063
人口が減少する傾向にある	-0.02156	0.12462	0.18492	0.88507

## &lt;因子解釈&gt;

抽出された因子は、「伝統重視」「低階層」「文化性」「過疎」である。

第一因子は、「昔ながらの習慣やしきたりを重んじ」たり、「神社のお祭りが年中行事のひとつとなっている」など、地域の風習・文化が深く根づいているということで、「伝統重視」の因子と命名した。第二因子は、「母子・父子家庭が多い」「生活保護受給家庭が多い」など、あまり

社会的階層が高くない地域ということで、「低階層」の因子とした。第三因子は、「図書館・美術館・大学などの文化施設」があったり、「教員より学歴の高い保護者」が多かったりと、地域において文化的要素が強いところということで、「文化性」の因子と名付けた。第四因子は、「人口が減少する傾向にある」など、人口流出が多くみられる地域ということで、「過疎」の因子とした。

## 4) 地域と学校の関わり

図6: 「地域と学校との関わり」の因子分析

質問内容	<学校批判> 第1因子	<学校・地域連携> 第2因子	<教育熱心> 第3因子	<地域活動> 第4因子
指導・評価についての苦情・要望を、直接管理職に訴える保護者が多い	0.81467	0.06012	0.08678	0.05523
子どもの評価をめぐって、学校・教師に苦情・要望を訴える保護者が多い	0.80965	0.05129	0.11507	0.04135
P T Aから学校・教師のあり方を批判されることが多い	0.67950	0.29842	-0.01205	-0.14600
地域住民から校外での生徒の立ち振る舞いについて連絡や苦情が寄せられることが多い	0.49681	0.27121	-0.33045	0.17336
子どもの学習について学校よりも塾に頼る保護者が多い	0.47723	-0.01904	-0.10793	0.38237
教師が学区の地域行事に参加することが多い	0.02879	0.78392	0.11540	0.12571
地域からのもちこみ行事が多い	0.23544	0.76465	-0.01856	0.04043
P T A総会の出席率が高い	-0.06943	0.19557	0.78604	-0.0726
授業参観の出席率が高い	0.15073	-0.08469	0.78527	0.19744
O B - O G組織が部活動に熱心に関わっている	0.01806	0.14774	0.13058	0.71773
地域での青少年健全育成活動が活発である	-0.04908	0.45939	0.03396	0.55885
地域住民から学校の騒音・土ぼこり・排煙についての苦情が多い	0.45777	-0.19187	-0.32838	0.46915

抽出された因子は、「学校評判」「学校・地域連携」「教育熱心」「地域活発」である。

第一因子は、「子どもの評価をめぐって、学校・教師に苦情・要望を訴え」たり、「PTAから学校・教師のあり方を批判され」たりと、学校に対して外部のものが批判・苦情などの形で関わってくる傾向として、「学校評判」の因子と命名した。第二因子は、「教師が学区の地域行事に参加」したり、「地域からのもちこみ行事が多い」など、地域が行事の参加を通じて学校に関与してくるというこ

とで、「学校・地域連携」の因子と名付けた。第三因子は、「PTA総会の出席率が高く」「授業参観の出席率が高い」など、積極的に子どもの教育について観察・意見表明をする傾向として、「教育熱心」の因子とした。第四因子は、「地域での青少年健全育成活動」が盛んであったり、「OB・OG組織が部活動に熱心に関わっていたり」と、学校外においても教育活動が様々な形で行われているということで、「地域活発」の因子と命名した。

5) 教師が持つ生徒指導観

図7:「教師が持つ生徒指導観」の因子分析

質問内容	<指導の共通性>	<指導の個性>	<教師理念先行>	<自律性尊重>
	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
学級の活動や学習を効果的に進めるためには、学級集団にルールやきまりを徹底させておくことが不可欠だ	0.72072	0.13226	0.17983	-0.12292
どの子どもにも、人間として共通の価値や規範を形成することが重要だ	0.68558	0.07811	-0.13480	-0.02836
「生徒との間に一線を画すべし」という共通認識が教職員間にある	0.57297	-0.19130	-0.02127	0.31279
生徒の生活態度や服装などについて厳しく指導している先生が多い	0.55151	0.06881	0.38370	-0.07269
どの子どもに対しても、基本的な知識や技能をひとしく習得させることが、学校教育の役割として重要だ	0.52633	0.10168	-0.21838	-0.17647
教師は子どもとできるだけ距離をつくらず、なんでも話し合えるような関係をつくるべきだ	0.12256	0.75667	-0.16912	-0.20332
学校教育では、子ども一人ひとりの違いに注目して、各々の子どもの独自性を引き出してやるのが重要だ	0.22311	0.73652	-0.22782	-0.07225
子どもには、それぞれの背景や環境が異なるから、画一的な価値や規範を形成することは好ましくない	-0.12504	0.62755	-0.04144	0.36862
特定の部活動では熱心さゆえにいきすぎた指導に及ぶことがある	-0.01851	-0.04465	0.79742	-0.02239
生徒の現実を考慮しないで、理想を追及しやすい教職員が多い	-0.22537	-0.19340	0.53760	0.16256
他にとるべき手段がないときは、体罰もやむを得ない	0.12261	-0.16525	0.52453	-0.01540
子どもは特に教師が統制しなくとも、学習や活動にすすんで参加できるものだ	-0.02231	0.20140	-0.00731	0.67511
教師は、学校という公的な機関のなかで子どもに対しているのであるから、あまり子どもの個人的な問題に踏み込むべきではない	0.02176	-0.27780	0.07577	0.67501

抽出された因子は、「指導の共通性」「指導の個性」「教師理念先行」「自律性尊重」である\*10。

第一因子は、「どの子どもに対しても、基礎的な知識や技能を等しく習得させる」ことや「どの子どもにも、人間として共通の価値や規範を形成すること」を重視する

など、生徒指導においてはどの子どもに対しても同じような内容を等しく教えていく傾向として、「指導の共通性」の因子と名付けた。第二因子は、「子ども一人ひとりの違いに注目して、各々の子どもの独自性を引き出して」あげることを大切にしたり、子どもの背景や環境の違いか



ら「画一的な価値や規範を形成することは好ましくない」など、生徒指導にあたっては子どもの個性にあわせた指導をするということで、「指導の個別性」の因子と命名した。第三因子は、「生徒の現実を考慮しないで、理想を追求しやす」かったり、「熱心さゆえにいきすぎた指導に及し、それを守り育てていこうとする雰囲気として、「自律性尊重」の因子とした。

ぶことがあったり」と、生徒指導を行う際に生徒の現状よりも教師の考え方や理想を優先させてしまう傾向として、「教師理念先行」の因子と命名した。第四因子は、「子どもは特に教師が統制しなくとも、学習や活動にすすんで参加できる」など、子どもの自主性・主体性を大切に

## 5、因子間の相関分析

### 1) 「学校組織風土」と「校長のリーダーシップ特性」との関係

	第1因子 ＜親和性＞	第2因子 ＜他律性＞	第3因子 ＜調和性＞	第4因子 ＜民主性＞	第5因子 ＜多忙性＞
第1因子＜権威依存＞	** 0.48	** -0.30	** 0.28	** 0.33	0.06
第2因子＜強 力＞	** 0.38	** -0.21	0.07	** 0.38	0.01
第3因子＜合意重視＞	** 0.43	** -0.27	** 0.19	** 0.43	** 0.13
第4因子＜他者比較＞	** 0.25	0.06	** 0.29	** 0.17	** 0.14
第5因子＜合理的＞	** 0.12	0.04	* -0.09	** 0.17	* 0.08
第6因子＜校長優位＞	** 0.13	0.03	** 0.14	** 0.14	0.08

図8：「学校組織風土」と「校長のリーダーシップ特性」との相関

\*…P<0.10    \*\* P<0.05

「学校組織風土」と「校長のリーダーシップ特性」との相関係数を求めると、全30対の相関の内、21対について有意な相関がみられた。これは、「校長のリーダーシップ特性」が「学校組織風土」と深く関係を有しており、学校組織風土の形成・変化などにおいては校長が大きな役割を担っている、と考えられる。まず、「親和性」と「民主性」の高い学校では、「権威依存」「強力」「合意

重視」「他者比較」「合理的」「校長優位」の全てが高い。しかし、「他律性」の高い学校では、「権威依存」「強力」「合意重視」の3つの因子が全て低い。また、「調和性」の因子が高いと、「権威依存」「合意重視」「他者比較」「校長優位」が高まり、「多忙性」が高いと、「合意重視」「他者比較」が高くなる。

### 2) 「学校組織風土」と「父母・地域の特性」との相関

図9：「学校組織風土」と「父母・地域の特性」との相関

	第1因子 ＜親和性＞	第2因子 ＜他律性＞	第3因子 ＜調和性＞	第4因子 ＜民主性＞	第5因子 ＜多忙性＞
第1因子＜伝統重視＞	-0.07	0.07	-0.06	-0.02	0.01
第2因子＜低階層＞	0.00	0.01	-0.05	-0.03	** 0.17
第3因子＜文化性＞	** 0.11	0.03	* -0.09	** 0.13	0.05
第4因子＜過疎＞	0.06	-0.57	-0.01	0.02	0.01

\*…P<0.10    \*\* P<0.05

「学校組織風土」と「父母・地域の特性」との相関係数を求めると、全20対の相関の内、3つについて有意な相関がみられた。まず、「文化性」の高い地域においては、学校組織風土の「親和性」「民主性」が高い。

また、「低階層」の地域では、「多忙性」が高まる。しかし、全体としては「学校組織風土」と「父母・地域の特性」はそれほど強い関係を持っていないといえる。

3) 「学校組織風土」と「地域と学校との関わり」との関係

図10: 「学校組織風土」と「地域と学校」との関わりとの相関

	第1因子 <親和性>	第2因子 <他律性>	第3因子 <調和性>	第4因子 <民主性>	第5因子 <多忙性>
第1因子<学校批判>	** - 0.17	** 0.12	** - 0.14	- 0.06	** 0.12
第2因子<学校・地域連携>	** 0.14	0.05	0.01	0.06	0.01
第3因子<教育熱心>	** 0.31	- 0.07	** 0.22	** 0.21	** - 0.14
第4因子<地域活発>	0.01	0.05	** - 0.12	- 0.02	0.07

\*... P<0.10      \*\* P<0.05

「学校組織風土」と「地域と学校との関わり」との相関係数を求めると、全20対の相関の内、10対について有意な相関が認められた。まず、「地域と学校との関わり」が「学校批判」の傾向の強いところでは、「学校組織風土」の「他律性」「多忙性」が高く、「親和性」「民主性」が高い。また、「教育熱心」な傾向が強い地域では、「多忙性」が低くなるとともに、「親和性」「調和性」「民主性」が高いことが認められる。最後に、「地域活発」の因子が

高いところでは、「調和性」が低い傾向がみられる。

「学校組織風土」との関係を考えて、「父母・地域の特性」よりも「地域と学校との関わり」の因子がより強い相関関係を持っているといえる。つまり、学校にとって、「地域」は、地域の特徴・条件そのものではなく、地域と学校の交流や関わりなどの方が、より強く意識され、影響力を持つものと考えられる。

4) 「父母・地域の特性」と「地域と学校との関わり」との関係

図11: 「父母・地域の特性」と「地域と学校との関わり」との相関

	第1因子 <伝統重視>	第2因子 <低階層>	第3因子 <文化性>	第4因子 <過疎>
第1因子<学校批判>	0.00	** 0.11	** 0.35	0.01
第2因子<学校・地域連携>	** 0.26	0.04	** 0.13	** 0.12
第3因子<教育熱心>	0.00	** - 0.27	0.05	* 0.08
第4因子<地域活発>	* 0.09	0.02	** 0.16	* - 0.09

\*... P<0.10      \*\* P<0.05

「父母・地域の特性」と「地域と学校との関わり」との相関係数を求めると、全20対の相関の内、7対について有意な相関がみられた。まず、「伝統重視」の地域では「学校・地域連携」の関わり方が多く、「低階層」の地域では「学校批判」が多く、「教育熱心」が少ない。

また、「文化性」の高い地域では、「学校批判」「学校・地域連携」「地域活発」の関わりが多い。最後に、「過疎」の地域では、「学校・地域連携」の因子が高い。すなわち、「父母・地域の特性」と「地域と学校との関わり」は、

全体的に高い相関関係にある。

このように、「父母・地域の特性」は「地域と学校との関わり」と密接な関連性を有している。このことは、「地域と学校との関わり」が「学校組織風土」に大きな影響を与えることとあわせて考えると、「父母・地域の特性」は「地域との学校との関わり」を媒介として、「学校組織風土」に影響力を有しているのである<sup>\*1)</sup>。

## 5) 「学校組織風土」と「教師が持つ生徒指導観」との関係

図12: 「学校組織風土」と「教師が持つ生徒指導観」との相関

	第1因子 ＜親和性＞	第2因子 ＜他律性＞	第3因子 ＜調和性＞	第4因子 ＜民主性＞	第5因子 ＜多忙性＞
第1因子＜指導の共通性＞	** 0.32	0.01	** 0.25	** 0.17	** 0.19
第2因子＜指導の個性性＞	** 0.47	** -0.31	** 0.16	** 0.24	0.03
第3因子＜教師理念先行＞	** -0.43	** 0.51	** -0.23	** -0.24	* 0.09
第4因子＜自律性尊重＞	** -0.14	** 0.10	** -0.16	* -0.08	0.00

\*…P&lt;0.10    \*\* P&lt;0.05

「学校組織風土」と「教師が持つ生徒指導観」との相関係数を求めると、全20対の相関の内、15対について有意な相関がみられた。これは、「学校組織風土」と「教師が持つ生徒指導観」が強い関連性を有していることの意味である。まず、「多忙性」の高い学校においては、「指導の共通性」の因子が高く、生徒指導が画一的・機械的に行われる傾向があると考えられる。次に、「親和性」と

「調和性」の高い学校においては、「指導の共通性」「指導の個性性」の傾向が強く、「教師理念先行」「自律性尊重」の雰囲気は減少する。それに類似するものとして、「民主性」の高い学校では、「指導の共通性」「指導の個性性」が高く、「教師理念先行」が低い。最後に、「他律性」の高いところでは、「指導の個性性」が低くなり、「教師理念先行」「自律性尊重」が高くなる。

## 6) 学校組織風土の地域的まとめ

図13: 「学校組織風土」記述に見られる地域的まとめ

県単位:

学校組織風土の因子	1 (105)		2 (295)	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差
第1因子	1.53	0.46	1.85	0.48
第2因子	3.55	0.47	3.35	0.50
第3因子	-0.45	0.46	-0.02	0.52
第4因子	2.90	0.67	2.14	0.50
第5因子	2.25	0.96	2.55	1.01

※図中のカッコ内の数字はサンプル数

※質問は5段階記述式

※…有意なまとめがある

地方教育事務所単位:

学校組織風土の因子	1 (15)		2 (28)		3 (11)		4 (15)		5 (32)	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
第1因子	1.44	0.47	1.58	0.49	1.43	0.35	1.52	0.59	1.57	0.41
第2因子	3.39	0.47	3.50	0.47	3.78	0.46	3.59	0.63	3.56	0.36
第3因子	±0.41	0.48	-0.83	0.44	-0.75	0.38	-1.27	0.50	-0.86	0.50
第4因子	2.02	0.85	2.14	0.34	2.06	0.42	1.43	0.46	2.16	0.58
第5因子	2.29	0.85	2.43	1.04	2.17	1.03	2.27	0.80	2.11	1.06

市町村単位：

学校組織風土の因子	1 (6)		2 (9)		3 (6)	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
第1因子	1.26	0.31	1.54	0.40	1.43	0.24
第2因子	3.40	0.43	3.60	0.53	3.63	0.15
第3因子	-0.57	0.50	-0.50	0.25	-0.42	0.49
第4因子	1.88	0.40	2.15	0.38	1.89	0.50
第5因子	2.13	0.83	2.89	1.17	1.50	0.55

(t検定による)

我が国の学校は、一つの自律性を持った学校として存在するとともに、共通して地方教育委員会の指導・統制のもとにある。こうした教育委員会の統制が、もし学校の組織風土や雰囲気にも影響を与えるとすれば、同じ統制・指導を受ける学校間の組織風土に共通した傾向が出てくるかもしれない。そこで、我々は、単位学校それぞれが有する学校組織風土が、どのような地域的まとまりを持っているのか、ということについて考察した。4gの1)で折出された「学校組織風土」を構成する因子が、県単位、地方教育事務所単位、市町村単位のどのレベルにおいて類似傾向がみられるのかを調べるために、それぞれのレベルにおいて「学校組織風土」を構成する五因子について分析を行った。<sup>\*12</sup>。その結果をまとめたのが、図13である。

まず、県単位では、第一、二、三、五因子で有意なまとまりがあると認められた。次に、地方教育事務所単位では、第二因子の一部分について有意なまとまりは見いだせなかった。最後に、市町村単位では、第五因子の一部分について有意なまとまりがあると認められたが、地方教育事務所単位と同様、全体としては有意なまとまりがあるとは認められなかった。以上

### 註釈

\*1 今回の調査実施にあたっては、「学校改善と個性に関する調査研究会」において、質問項目作成段階から多くの議論が行われ、参加者相互の協力の下で膨大な調査結果の集計や分析を行うことができた。研究会参加者は、藤原文雄(東京大学大学院博士課程)、平田淳(同)、富江英俊(同)、宇賀直樹(東京大学大学院修士課程)、江越祐伸(同)、山下和彦(静岡県立気賀高校教諭、東京大学教育部派遣研究生)、岡田賢宏(法政大学大学院修士課程)、藏田幸三(法政大学大学院修士課程、本報告執筆担当)である。

\*2 学校組織風土研究としては、天笠茂「教員研修の組織風土に関する基礎的考察—緒調査研究の分析をふまえて—」『教員研修の諸問題』(日本教育行政学会年報7)教育開発研究所、1981、pp.115-128.や、菊池栄治・八尾坂修・坂本孝徳・河合久「初任者の力量形成と勤務校の組織風土—教科指導研修を中心に—」『日本教育経営学会紀要』第35号、1993、pp.56-68.、河野和清「学校革新を規定する組織風土要因の分析」日本教育学会編『教育学研究』第51巻 第1号、1984、pp.108-118.などがある。

学校組織風土・組織文化研究としては、林孝「学校の組織風土に関する研究—教師の認知する組織風土と学校の経営条件の関係について—」『広島大学教育学部紀要』第1部 第30号、1981、pp.107-117.や、林孝「学校の組織風土・組織文化に関する考察—教諭の組織風土イメージを中心に—」『広島大学学校教育学部紀要』

第1部第16巻、1994、pp.111-125.、林孝・曾余田浩史・福本昌之・矢藤誠慈郎「教師の力量形成に及ぼす学校の組織風土・組織文化の影響に関する実証的研究(Ⅰ)—教諭の教職経験に注目して—」『広島大学学校教育学部紀要』第1部第16巻、1994、pp.127-140.、林孝・曾余田浩史・矢藤誠慈郎・福本昌之「教師の力量形成に及ぼす学校の組織風土・組織文化の影響に関する実証的研究

(Ⅱ)—初任者を中心として—」中国四国教育学会『教育学研究紀要』第39巻 第1部、1993、pp.310-321.、林孝・福本昌之・曾余田浩史・矢藤誠慈郎「教師の力量形成に及ぼす学校の組織風土・組織文化の影響に関する実証的研究(Ⅲ)—組織レベルの分析を中心に—」『広島大学学校教育学部紀要』第1部第17巻、1995、pp.151-162.の一連の研究成果がある。

\*3 学校組織文化研究としては、今津孝次郎「学校組織文化と教師」

- 【名古屋大学教育学部紀要(教育学科)】 第39巻 第1号、1992、pp.35-49、や曾余田浩史「学校組織文化のマネジメントに関する一考察—中身から外見へ—」【日本教育経営学会紀要】 第36巻、1994、pp.58-70。などがあり、組織文化研究としては、岡東壽隆「学校の組織文化と管理者のリーダーシップ」牧昌見・佐藤全編『学校改善と教職の未来』(日本の教育 第4巻)教育開発研究所、1990、pp.211-237。などがある。また、学校文化研究としては、中留武昭「学校文化を形成する校長のリーダーシップに関する研究(その1)—学校文化の構造と文化的リーダーシップの特性—」【九州大学教育学部紀要(教育学部門)】 第40集、1994、pp.47-74。や、中留武昭「教育課程経営に焦点をあてた校長のリーダーシップスタイルの考察—学校改善を規定する学校文化との関連性をベースにして—」【九州大学教育学部紀要(教育学部門)】 第42集、1996、pp.77-94などがある。
- \*4 学校組織特性研究としては、佐古秀一「学校の組織構成次元の抽出とその複合性に関する実証的研究」【鳴門教育大学研究紀要(教育科学編)】 第5巻、1990、pp.321-337。、や、佐古秀一「学校組織特性と教師の指導観に対応の関する研究」【鳴門教育大学研究紀要(教育科学編)】 第10巻、1995、pp.79-91。佐古秀一「学校組織特性と学習指導要領の学校内定着過程—小学校教員調査の分析をもとに—」金子照基編著『学習指導要領の定着過程—指導行政と学校経営の連関分析—』風間書房、1995、pp.85-109。、小野擴男・小野由美子・畑本恵子「学校の組織特性と教師の教育活動に関する研究(1)」【奈良教育大学紀要(人文・社会)】 第42巻 第1号、1993、pp.71-79。、小野由美子「職場としての学校：学校の組織特性が教師の教育活動に及ぼす影響」【日本教育経営学会紀要】 第36巻、1994、pp.44-57。などがある。
- \*5 今回用いた因子分析の方法は、質問群2)・3)・5)・6)・7)・8)について次のような統計処理を行った。各質問群に關係する質問項目全てについて、主体角要素に全て「1」を用いて主成分分析を施して因子を抽出した後、バリマックス回転を行い、固有値1以上の複数の因子を抽出した。その析出された因子に含まれる質問項目の中で、「.500」以上の因子負荷量を示した項目(各表で下線が引かれている項目)を、因子負荷量が大きい順に並び替え、各因子について解釈を行った。なお、「学校組織風土」と「校長のリーダーシップ特性」については、各項目毎の回答数の度数割合を計算し、単純集計として表にまとめた。
- \*6 因子間の相関を検討するにあたっては、各質問群(まとめ)において析出された因子について、各因子毎に合成変数を作成し、それぞれに対応する相関係数を求めた。なお、5%水準、10%水準で有意な相関が認められたものは、それぞれ「\*\*」「\*」の印を付けて表に示した。
- \*7 林孝・曾余田浩史・矢藤誠慈郎・福本昌之「教師の力量形成に及ぼす学校の組織風土・組織文化の影響に関する実証的研究(II)—初任者を中心として—」中国四国教育学会『教育学研究紀要』第39巻 第1部、1993、pp.310-321。
- \*8 佐古秀一「学校組織特性と教師の指導観の対応に関する研究」【鳴門教育大学研究紀要(教育科学編)】 第10巻、1995、pp.79-91。
- \*9 「学校組織風土」の因子分析については、主に学校組織風土を問うQ3を中心として、質問票作成段階においては他の質問群に含まれていたが、集計段階において学校組織風土に関わると判断した項目もあわせて、因子分析を行った。具体的に因子分析に組み込んだ質問項目は、「教科指導のねらいや重点については、校内教師との調和を重視すべきだ」(Q13B d)、「教科指導のねらいや重点については、教師はそれぞれの考え方にたって決めていけばよい」(Q13B i)である。
- \*10 \*9と同様、「教師が持つ生徒指導観」の因子分析についても同じ分析方法を用いた。具体的に因子分析に組み込んだ質問項目は、「生徒の現実を考慮しないで、理想を追求しやすい教職員が多い」(Q3 J)、「特定の部活動では熱心さゆえにいきすぎた指導に及ぶことがある」(Q3 L)、「生徒との間に一線を画すべきだ」という共通認識が教職員間である」(A3 R)、「生徒の生活態度や服装などについて厳しく指導している先生が多い」(Q3 X)である。
- \*11 地域と学校組織風土との関係についての詳細な分析・考察は、本紀要収録 富江英俊「地域社会が学校組織風土に及ぼす影響についての考察—学校・地域連携の現状と可能性—」を参照。
- \*12 「学校組織風土」の地域的まとめ、凝集性の分析は、まず、「学校組織風土」の各因子で高い負荷量を示した項目についてその回答段階に1から5つの点数を与え、それらを合計し項目数で除して平均を求め、さらに標準偏差を求めた。そして、それらを県、地方教育事務所、市町村の各段階で、「学校組織風土」の五つの因子についてt検定(県、市町村段階)、一元配置分散分析を行った。

# 学校改善と学校の個別性についての調査

1997年8月  
 東京大学教育学部  
 教育行政学研究室

Q1 先生の勤務校の所在地をお聞かせ下さい。

(該当個所に○をつけ、区市町村名を記入してください)  
 東京都・茨城県 ( ) 区・市・町・村

Q2 先生ご自身および現在の勤務校のことについてお聞かせ下さい。

- A 先生は教職に就かれてから平成10年3月時点で何年になられますか。  
 ( ) 年
- B 先生が校長に任用されてから平成10年3月時点で何年になられますか。  
 ( ) 年
- C 先生は現任校に着任されてから平成10年3月時点で何年になられますか。  
 ( ) 年
- D 先生の校長に任用されるまでのキャリア・プロセスを、「例」のように下の選択肢の中から番号を組み合わせてお聞かせ下さい。  
 「例」 教員－教務主任－指導主事－教頭－校長 の場合、①－③－⑦－⑥－⑨

①	—	—	—	—	—	—	—
---	---	---	---	---	---	---	---

選択肢 ①教員 ②学年主任 ③教務主任 ④進路指導主事  
 ⑤生活指導主事 ⑥教頭 ⑦指導主事 ⑧社会教育主事  
 ⑨校長 ⑩その他(具体的にお答え下さい: )

E 先生の性別をお聞かせ下さい。(○をつけて下さい) 1. 男性 / 2. 女性

F 先生が主に担当されてきた教科目をお聞かせ下さい。( )

G 先生の現在の勤務校についてお聞かせ下さい。

本務教員数…(男: 人 女: 人) 本務教員の平均年齢…( ) 歳  
 生徒数…( ) 人 学級数…( ) 学級

H 先生の現在の勤務校における職員団体(組合)活動はどのような状況ですか。当てはまるものに○をつけて下さい。

1. 活発 2. やや活発 3. それほど活発ではない 4. 全く活動していない

Q3 先生が現在勤務されている学校の雰囲気をお尋ねします。先生は現在の勤務校に

対してどのような印象をお持ちですか。以下の各項目について、1. まさにそうである、2. だいたいそうである、3. どちらともいえない、4. あまりそうでない、5. 全くそうでない、の5段階でお答え下さい。

	まさにそう である	だいたい そうである	どちらとも いえない	あまり そうでない	全くそう でない
A 教職員間の親睦を深めるための機会が多い	1	2	3	4	5
B 教職員は生徒の成長の様子を話題にすることが多い	1	2	3	4	5
C 教育活動に関して教職員間で互いに指導助言し合っている	1	2	3	4	5
D 教職員間には同僚の努力過程よりも、功績や成果を評価する雰囲気がある	1	2	3	4	5
E 日常の職務に関する連絡事項や情報は全教職員にいきわたっている	1	2	3	4	5
F 職員会議では活発な討論が行われ、各自の意見を自由に交換できる	1	2	3	4	5
G 教職員はそれぞれの教育方針や活動についてお互いに無関心である	1	2	3	4	5
H 学校運営にあたっては慣行や伝統が重視されている	1	2	3	4	5
I 学校運営において各自の仕事がどのように役立っているか理解している教師が多い	1	2	3	4	5
J 生徒の現実を考慮しないで、理想を追求しやすい教職員が多い	1	2	3	4	5
K 仕事に必要な知識技能を積極的に伸ばそうとする気風に富んでいる	1	2	3	4	5
L 特定の部活動では熱心さゆえにいきすぎた指導に及ぶことがある	1	2	3	4	5
M 少しくらいの失敗であれば、許しあえる雰囲気が教職員間にある	1	2	3	4	5
N 指導力のある先生に追従しやすい傾向が教職員間に見られる	1	2	3	4	5
O 教科指導の方法は、各教師が自分の考え方で思い思いに実施している	1	2	3	4	5
P 学級経営のあり方や担任の悩みが学年会や全校研修の場で、みんなの問題として共有される	1	2	3	4	5
Q 指導力のない教職員を全体としてサポートしていく雰囲気がある	1	2	3	4	5

- R 「生徒との間に一線を画すべきだ」という共通認識が  
教職員間にある 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- S 普段は一人で事を進めながら、せっぱつまった  
ときには「管理職頼み」になる傾向が教職員に  
ある 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- T 教職員間に体罰に無関心を装う雰囲気がある 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- U 多忙のため、教職員にゆとりがない 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- V 学級担任を選ぶ場合、教師の希望が尊重されている 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- W 校外の研究会や研修への参加が奨励されている 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- X 生徒の生活態度や服装などについて厳しく指導  
している先生が多い 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- Y 核となる教師に振り回されている 1 — 2 — 3 — 4 — 5

**Q 4** 先生が現在勤務されている学校でのリーダーシップについてお尋ねします。先生は、現在の勤務校ではどのようなことを重要視されていますか。以下の各項目について、1. 非常に重要視している、2. かなり重要視している、3. やや重要視している、4. あまり重要視していない、5. 全く重要視していない、の5段階でお答え下さい。

- |                                       | 非常に<br>いる | かなり<br>いる | やや<br>いる | あまり<br>いない | 全く<br>いない |
|---------------------------------------|-----------|-----------|----------|------------|-----------|
| A 学校の指導方針が保護者に理解され支持されるよう<br>努めること    | 1         | 2         | 3        | 4          | 5         |
| B 学校全体として教育・指導にあたる全教職員の<br>協力を求めること   | 1         | 2         | 3        | 4          | 5         |
| C 教育活動の遂行に教職員の創意や自主性を<br>生かすこと        | 1         | 2         | 3        | 4          | 5         |
| D 生徒に学習面や生活面の規律を守らせること                | 1         | 2         | 3        | 4          | 5         |
| E 学校の運営にあたって各自の果たす役割や<br>責任が明確であること   | 1         | 2         | 3        | 4          | 5         |
| F 学校の運営にあたって、校長が自己の方針や<br>考え方を明確に示すこと | 1         | 2         | 3        | 4          | 5         |
| G 教職員が保護者の教育要求を把握し教育活動に<br>取り組むこと     | 1         | 2         | 3        | 4          | 5         |
| H 校務分掌の担当は職能成長に応じ教職員間で<br>公平に分担されること  | 1         | 2         | 3        | 4          | 5         |
| I 全教職員による話し合いで得られた合意が<br>尊重されること      | 1         | 2         | 3        | 4          | 5         |



	非常に いる	かなり いる	やや いる	あまり いない	全く いない
J 校長の経営権が教職員によって侵害されないように すること	1	2	3	4	5
K 創意工夫のある授業をしている先生には高い評価を 与えること	1	2	3	4	5
L 性や年齢にかかわらず力量のある教師を リーダーに起用すること	1	2	3	4	5
M 最終的責任を引き受ける姿勢が校長にあることを 教職員に対して示すこと	1	2	3	4	5
N 教職員間でお互いに良いところを評価するような 雰囲気をつくること	1	2	3	4	5
O 生徒の現状について、教職員同士でつねに 情報交換をするように努めること	1	2	3	4	5
P 学校運営における伝統・慣習を見直す機会を つくること	1	2	3	4	5
Q 市町村（区）内の他の校長先生の経営のあり方に 歩調を合わせること	1	2	3	4	5
R 学業成績・部活動・生徒の立ち振る舞いにおいて、 市町村（区）内の他の学校に負けないようにする こと	1	2	3	4	5
S 校外における生徒指導にも学校が関与すること	1	2	3	4	5
T 筋の通らない保護者や地域の意見を断固として 拒否すること	1	2	3	4	5
U 「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」を徹底 すること	1	2	3	4	5
V 中教審等の審議会答申を学校経営に反映させること	1	2	3	4	5
W 県（都）教委の指導方針を尊重すること	1	2	3	4	5
X 地方教育事務所の指導方針を尊重すること	1	2	3	4	5
Y 市町村（区）教委の指導方針を尊重すること	1	2	3	4	5
Z 校長会で決定された方針を尊重すること	1	2	3	4	5
a 全教職員が学校の教育目標や計画の達成に対する 高い関心を持つこと	1	2	3	4	5
b 全教職員が学校の教育目標や計画に関与し、共通の 理解に努めること	1	2	3	4	5

Q5 先生が勤務されている学校の教育目標についてお尋ねします。

- A 学校の教育計画（書）を保護者に対して公開しておられますか。次の1～3のうち、あてはまるものに○をつけて下さい。

1. 全面公開	2. 一部公開	3. 非公開
---------	---------	--------

- B 学校の経営案を公開しておられますか。次の1～3のうち、あてはまるものに○をつけて下さい。

1. 全面公開	2. 一部公開	3. 非公開
---------	---------	--------

- C 学校の教育目標や計画に関して、次のa～dの項目についてお答え下さい。

とても	やや	あまり	まったく
あてはまる	あてはまる	あてはまらない	あてはまらない

- |                                   |   |   |   |   |
|-----------------------------------|---|---|---|---|
| a) 学校の教育目標や計画を保護者に知らせる努力をしている     | 1 | 2 | 3 | 4 |
| b) 学校の教育目標や計画に対して保護者の関心は高い        | 1 | 2 | 3 | 4 |
| c) 学校の教育目標や計画は教職員の合意の上で決められている    | 1 | 2 | 3 | 4 |
| d) 学校の教育目標や計画を立てるときに校長の考えが明快に示される | 1 | 2 | 3 | 4 |

- D-1 教育目標中の「重点目標」を決めた際に、以下のものをどの程度参考にしましたか。

大変	やや	あまり	全く
参考にした	参考にした	参考にしなかった	参考にしなかった

- |                           |   |   |   |   |
|---------------------------|---|---|---|---|
| a) 他校の教育目標                | 1 | 2 | 3 | 4 |
| b) 市町村(区)の教育目標・ねらい        | 1 | 2 | 3 | 4 |
| c) 地方教育事務所の教育目標・ねらい       | 1 | 2 | 3 | 4 |
| d) 県(都)の教育目標・ねらい          | 1 | 2 | 3 | 4 |
| e) 中教審など審議会の答申            | 1 | 2 | 3 | 4 |
| f) 学習指導要領                 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| g) 学校教育法                  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| h) 教育基本法                  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| i) 憲法                     | 1 | 2 | 3 | 4 |
| j) 児童の権利条約                | 1 | 2 | 3 | 4 |
| k) その他（ご自由にご記入下さい： _____） |   |   |   |   |

D-2 その際に誰の意見に基づいて決定しましたか。どの程度参考にしたかお答え下さい。

	大変 参考にした	やや 参考にした	あまり 参考にしなかった	全く 参考にしなかった
a) 自己 (の教育観)	1	2	3	4
b) 教職員	1	2	3	4
c) 生徒	1	2	3	4
d) 個々の保護者	1	2	3	4
e) OB・OG	1	2	3	4
f) PTA	1	2	3	4
g) 市町村(区)内の他の校長	1	2	3	4
h) 校長会	1	2	3	4
i) 地域住民	1	2	3	4
j) 県(都)教育委員会				
k) 地方教育事務所	1	2	3	4
l) 市町村(区)教育委員会	1	2	3	4
m) 市町村(区)議会議員	1	2	3	4
n) その他 (ご自由にご記入下さい: )				

Q6 先生が現在勤務されている中学校の学区の様子について、最も近いものを1つ選んで下さい。

1. 農村
2. 漁村
3. 古くからの住宅地
4. 新興住宅地
5. 駅や商店街がある町の中心部(商業地)
6. 集合住宅(団地)が中心の住宅地
7. 工業地
8. 1~6のどれにも該当しない

→具体的に記入して下さい ( )

SQ 上の質問で、1つの選択肢に決めるのに躊躇された方にのみお聞きします。迷われた2つ以上の地域の関係は次のうちのどれですか。1つ選んで○をつけてください。

- |           |           |              |
|-----------|-----------|--------------|
| 1. 調和している | 2. 対立している | 3. お互い不干渉である |
|-----------|-----------|--------------|

Q7 先生が現在勤務されている中学校の学区内にある公立小学校から、中学校入学の際に私立中学校に流出していく生徒は小学校卒業者の何%くらいいますか。次の1~4から1つ選んで○をつけてください。

- |            |            |
|------------|------------|
| 1. 10%未満   | 2. 10%~30% |
| 3. 30%~50% | 4. 50%以上   |

**Q 8** 先生から見て、中学校の学区在住の地域住民の社会的な階層（くらし向き）は、市町村（区）全体の平均と比べて、どの程度のレベルだと感じておられますか。  
次のうちから選んで下さい。

市区町村の平均と比べて  
暮らし向きが

1. 良い
2. やや良い
3. あまり良くない
4. 良くない

地域住民が多い

**Q 9** 先生が現在勤務されている中学校の学区の様子について、うかがいます。（とてもあてはまるーややあてはまるーあまりあてはまらないーまったくあてはまらない 4段階）

	とても	やや	あまり	まったく
	あてはまる	あてはまる	あてはまらない	あてはまらない
A 昔ながらの習慣やしきたりを重んじる	1	2	3	4
B 転入者・転出者が多い	1	2	3	4
C 人口が減少する傾向にある	1	2	3	4
D いわゆる「地域有力者（地域のボス）」がいる	1	2	3	4
E いわゆる「名門小学校」がある	1	2	3	4
F 教員より学歴の高い保護者が多い	1	2	3	4
G 母子・父子家庭が多い	1	2	3	4
H 生活保護受給家庭が多い	1	2	3	4
I 神社のお祭りが年中行事の一つとなっている	1	2	3	4
J 図書館・美術館・大学などの文化施設がある	1	2	3	4

**Q10** 先生は次のような意見について、どう思われますか。（とてもそう思うーややそう思うーあまりそう思わないーまったくそう思わない 4段階）

	とても	やや	あまり	まったく
	そう思う	そう思う	そう思わない	そう思わない
A 保護者以外の地域住民も、もっと中学校のことについて関心を持つべきだ	1	2	3	4
B 保護者以外の地域住民も、学校経営に参加できる方法を模索すべきだ	1	2	3	4
C 家庭に問題を抱えている生徒は、学校でいくら熱心に指導しても、限界がある	1	2	3	4
D いじめ・不登校などの問題が起こるのは、学校以外に原因がある	1	2	3	4

	とても そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
E 学校と地域が連携するためには、町内会や地域 有力者との連携を深める必要がある	1	2	3	4
F 授業や課外活動において、地域住民とのふれあいの 時間を作るべきだ	1	2	3	4
G 学区外に居住する教員も、学区内のお祭りや行事に 参加すべきだ	1	2	3	4
H 体育館・グラウンドなどの学校施設は現状よりも もっと地域住民に開放すべきだ	1	2	3	4
I 公立小中学校の学区を撤廃し、保護者には学校 選択の自由を保障すべきだ	1	2	3	4
J 地域の受け皿がない以上、地域と学校の連携と いっても夢のような話である	1	2	3	4

Q11 先生が現在勤務されている中学校に、保護者が最も期待していることを、次の1～4からあえて1つ選ぶと何になるでしょうか。1つ選んで○をつけて下さい。

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1. 基礎的な学力の指導 | 2. 高校受験についての指導 |
| 3. 生活指導（しつけ） | 4. 体力づくり       |

Q12 先生の学校と地域・保護者との関わりについてお尋ねします。次の各項目について5段階でお答え下さい。

	非常に あてはまる	かなり あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはまらない	全く あてはまらない
A 授業参観の出席率が高い	1	2	3	4	5
B 子どもの評価をめぐって、学校・教師に苦情・ 要望を訴える保護者が多い	1	2	3	4	5
C 指導・評価についての苦情・要望を、直接 管理職に訴える保護者が多い	1	2	3	4	5
D P T A総会の出席率が高い	1	2	3	4	5
E P T Aから学校・教師のあり方を批判される ことが多い	1	2	3	4	5
F 地域からのもちこみ行事が多い	1	2	3	4	5
G 教師が学区の地域行事に参加することが多い	1	2	3	4	5
H 地域住民から校外での生徒の立ち振る舞い について連絡や苦情が寄せられることが多い	1	2	3	4	5
I 地域での青少年健全育成活動が活発である	1	2	3	4	5

- |                                 | 非常に   | かなり   | やや    | あまり     | 全く      |
|---------------------------------|-------|-------|-------|---------|---------|
|                                 | あてはまる | あてはまる | あてはまる | あてはまらない | あてはまらない |
| J 地域住民から学校の騒音・土ぼこり・排煙についての苦情が多い | 1     | 2     | 3     | 4       | 5       |
| K OB・OG組織が部活動に熱心に関わっている         | 1     | 2     | 3     | 4       | 5       |
| L 子どもの学習について学校よりも塾に頼る保護者が多い     | 1     | 2     | 3     | 4       | 5       |

**Q13 先生の学校の生徒の現状と生徒指導のあり方について質問します。**

- A 問題行動の頻度について次の1から4の中から選んで下さい。(よくある — ある — あまりない — ない 4段階)**

- |                          | よくある | ある | あまりない | ない |
|--------------------------|------|----|-------|----|
| a) いじめ問題                 | 1    | 2  | 3     | 4  |
| b) 不登校                   | 1    | 2  | 3     | 4  |
| c) 授業妨害行為                | 1    | 2  | 3     | 4  |
| d) エスケープ・怠学              | 1    | 2  | 3     | 4  |
| e) 学校の施設や器具の破壊行為(落書きを含む) | 1    | 2  | 3     | 4  |
| f) 対生徒暴力                 | 1    | 2  | 3     | 4  |
| g) 対教師暴力                 | 1    | 2  | 3     | 4  |

- B 以下のような考え方に同調する教師の割合はどのくらいですか。(かなり多い — やや多い — それほど多くない — 少ない 4段階)**

- |   | かなり多い | やや多い | それほど多くない | 少ない |
|---|-------|------|----------|-----|
| a) 学校教育では、子ども一人ひとりの違いに注目して、各々の子どもの独自性を引き出してやる<br>ことが重要だ               | 1     | 2    | 3        | 4   |
| b) 教師は子どもとできるだけ距離をつくらず、<br>なんでも話し合えるような関係をつくるべきだ                      | 1     | 2    | 3        | 4   |
| c) 教師は、学校という公的な機関のなかで子どもに<br>対しているのであるから、あまり子どもの個人的<br>な問題に踏み込むべきではない | 1     | 2    | 3        | 4   |
| d) 教科指導のねらいや重点については、校内教師<br>との調和を重視すべきだ                               | 1     | 2    | 3        | 4   |
| e) 学級の活動や学習を効果的にすすめるためには、<br>学級集団にルールやきまりを徹底させておくこと<br>が不可欠だ          | 1     | 2    | 3        | 4   |

- |  | かなり多い | やや多い | それほど多くない | 少ない |
|--|-------|------|----------|-----|
| f) 子どもには、それぞれの背景や環境が異なるから、画一的な価値や規範を形成することは好ましくない  | 1     | 2    | 3        | 4   |
| g) どの子どもにも、人間として共通の価値や規範を形成することが重要だ                | 1     | 2    | 3        | 4   |
| h) 子どもは特に教師が統制しなくとも、学習や活動にすすんで参加できるものだ             | 1     | 2    | 3        | 4   |
| i) 教科指導のねらいや重点については、教師はそれぞれの考え方にたって決めていけばよい        | 1     | 2    | 3        | 4   |
| j) どの子どもに対しても、基本的な知識や技能をひとしく習得させることが、学校教育の役割として重要だ | 1     | 2    | 3        | 4   |
| k) 他にとるべき手段がないときは、体罰もやむを得ない                        | 1     | 2    | 3        | 4   |

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

なお、ご希望の方には、集計結果・分析を送付させていただきます。集計結果・分析の送付をご希望の方は、下欄に送付先住所（郵便番号も含む）・宛名をご記入下さい。送付先住所に関しましては、必ずしも学校である必要はなく、ご自宅でも結構です。